

## 努力事項解説 その2 (中学校音楽)

今回は、「児童が、音楽を形づくっている要素を聴き取り、音楽のよさや美しさと結び付けて感じ取ることができるような授業の展開を構想する。」の「実践例」を掲載する予定でした。これを7月19日（金）に変更し、今回は、中学校の重点について考えてみます。

生徒が音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、  
それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取ることができるよう、  
幅広い学習活動（歌う・奏でる・創る・聴く）を組織しましょう。

これは

音楽を形づくっている要素や要素同士の関連が、音楽のよさや面白さを作りだしていることに**気付かせる**ように指導を工夫しましょう。そのとき、ひとつの領域だけで題材を構成するのではなく、「歌唱と器楽」とか、「歌唱と創作と鑑賞」など、領域を組み合わせるよう指導しましょう。

ということです。

○ポイント1

教師は、音楽を形づくっている要素に注目して題材を組み立てましょう。

例えば、「リズム」という要素に注目したら、それを柱として、歌唱、器楽、創作、鑑賞の活動を組み合わせてそれを指導をしましょう。

具体的には、リズムが特徴的な曲（例えば、ラヴェルのボレロ等）を選んだら、まずそれを鑑賞してリズムの特徴を感じ取り（鑑賞）、そのリズムを使ってそれに合う旋律を創ってみる（創作）。そして、それをリコーダー等で演奏してみる（器楽）などの活動が考えられます。

○ポイント2

生徒の意識を、発声の技能の習得や、楽曲を仕上げる（完成させる）ことのみに向けさせるのではなく、音楽を形づくっている要素に向けさせるようにしましょう。

例えば、「リズム」に焦点を当てたときは、生徒が、「この曲からは、付点音符のリズムが聴こえる（知覚）。付点音符は弾んだ感じに聴こえるから、うきうきとした明るい気分になるんだな（感受）。では、弾んだ感じがしっかりできるように付点音符のリズムを正しく歌うようにしよう。」と思うような指導を工夫していきましょう。

### ○ポイント3

**生徒が**音楽を創る指導を行いましょう。(音楽を創るとは、生徒が思いや意図を持って、要素の特質から生まれるよさや面白さを感じ取りそれを生かして演奏するという意味です。)

「教師が曲から感じ取ってイメージしたことを生徒に歌わせるのではなく、生徒が自分で感じ取ったことを自分の思いや意図を持って歌う。」ということです。例えば、生徒が「この曲は音がパートごとにずれているところと、合っているところがあって、パートごとに追いかけているような面白さと音が重なって和音の響きが印象的なところがはっきり分かれています、それがとてもいい感じがする。だから、自分は、それぞれのよさができるように、和音のところは、和音がよく響くようにバランスに気を付けて、追いかけるところは、自分のパートが入るところをはっきり歌ってめりはりを付けて歌いたい。」という意図や思いを持たせるように指導していきましょう。



そのために

生徒が、表現について考える機会（時間）を作りましょう（音楽について思考する時間）

教師の「このように歌いなさい。」という一方的な指導ではなく、生徒に、どのように表現すればその曲のよさが生きてくるのか考えさせる指導を行いましょう。教師は、音楽の要素についてヒントを与えて、内容のある学習になるように導く役割を果たしましょう。

生徒が、自分の思いや意図を持って表現したものを、自分の意図通りに表現できたのかそうでないのか、判断させる機会を作りましょう。(音楽について判断する時間)

自分で歌ったり、演奏したものを客観的に評価することは大人でも難しいものです。中学生ではなおさらです。

よく、表現の工夫を目的としたグループ活動を見ることがありますが、表現の工夫点を話し合っ、繰り返し歌うだけで、話し合った表現の工夫を表現できたのかどうかの判断もされないまま、いわゆる「活動あって学習なし」のグループ活動になってしまっていることがあります。

グループで「ここをクレッシェンドしよう。そうすればかっこよくなる。」と決めて、それを目的として歌うときは、誰か一人、「聴き役、判断役」を決めましょう。そして「うん、確かにクレッシェンドしていたよ。」とか「今までと変わってないなあ。もっと後半大きくしないとだめだよ。」など、工夫の内容が実現できているか、評価させましょう。また、この役を輪番制にして、全員に体験させることも大切です。

器楽、創作の指導を充実させましょう。

中学校学習指導要領解説音楽編にも、それぞれ特定の活動のみに偏らないようにしようと記されています。「分かってはいるけれど・・・」から脱するためには、歌唱の題材に絡ませて、器楽や創作を行っていくことが一番行いやすい方法ではないかと思います。音楽的な要素を柱として、歌唱を中心とした題材でも、少しずつでも器楽や創作、鑑賞を関連させながら題材を組み立てていきましょう。



次回は、小学校音楽科の重点「児童が、音楽を形づくっている要素を聴き取り、音楽のよさや美しさと結び付けて感じ取ることができるような授業の展開を構想する。」の「実践例」を考えていきます。7月19日（金）頃アップする予定です。